

ダニエル・オッテンザマー クラリネット・トリオ・アンソロジー

6月から7月にかけて2度目の来日ツアーを予定している『クラリネット・トリオ・アンソロジー』。

本ツアーで満を持して6月28日(土)に杉並公会堂への出演が決定！
そこで、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で首席クラリネット奏者として活躍する
ダニエル・オッテンザマーさんに杉並公会堂からのインタビューにお答えいただきました！



—3人は幼なじみとのことですが、こういった出会いだったのでしょうか。

あまりに幼なく記憶にないのですが、シュテファンと私はよく砂遊びをしていたそうです。とにかく若い頃から一緒に音楽をしてきましたね。クリストフとは、本格的に音楽を学び始めた頃に出会ってすぐに打ち解け、3人で共に歩んできました。ここまで続けて来られたのは、いたって自然な流れのように感じます。

私たちはこれまで「フィルハーモニクス」をはじめ様々なアンサンブルに取り組んできましたが、コロナ禍でオーケストラの活動が停滞していた時、3人の楽器だけで演奏するクラリネット三重奏のレパートリーを深く掘り下げてみようということになりました。と言うのも、ベートーヴェンやブラームスの有名な三重奏曲は演奏していましたが、それ以外の作品はほとんど知らなかったからです。

まずは大量の楽譜を取り寄せるところから始まり、楽譜を読み込み演奏していくうちに、コンサートではほとんど演奏されない隠れた傑作がたくさんあることが分かりました。それらの作品を録音しようと決め、1年かけてリハーサルと録音を重ねて完成したのが、7枚組のCD「クラリネット・トリオ・アンソロジー」です。



—今回演奏するのはそのCDに収録された曲の中からの選りすぐりのプログラムだと思いますが、特に聴き所など、注目すべき推しポイントはありますか？

私たちのコンサートではいつも、作曲家たちがこの3つの楽器を用いていかに異なる音楽を作り上げたかをお客様に感じ取っていただきたいと思っています。

ルイーゼ・ファランクはメンデルスゾーンと同時代の女性作曲家。明るくきらめきを放ち、高潔な作品です。
マックス・ブルッフは私たちのお気に入りの作曲家の一人で、その作品はいつも哀愁と親密さを帯びています。
オーストリア人のフリードリヒ・チェルハは、同国出身の高名なチェロ奏者、ハインリヒ・シフのために「5つの小品」を書きました。今回はその中から、ゆっくりしたミステリアスな調性から徐々に盛り上がり、ドラマティックな結末を迎える第5番を演奏します。
ブラームスの三重奏曲はこの楽器編成における最重要作品。何度演奏しても飽きることのない傑作ですが、なかでも私とシュテファンがハンガリーの血を受け継いでいるので、その風合いを帯びた第4楽章は特別です。



—2回目の来日ツアーで杉並公会堂での初出演が決まり、心から嬉しく思います。ぜひ杉並公会堂にご来場するお客様へメッセージをお願いします。

杉並公会堂での公演をとっても楽しみにしています。日本のお客様に演奏をお届けするのはとりわけ楽しく、コロナ禍中に私たちが構築したクラリネット三重奏曲の幅広いレパートリーの中から選りすぐったプログラムをお届けするのが待ち遠しいです。作曲家たちがこの3つの楽器で描いた様々な色彩や情景を楽しむ音楽の旅をご一緒できればと思います。



Photo by Andrej Grilc

ダニエル・オッテンザマー クラリネット・トリオ・アンソロジー

6月28日(土)14:00開演 (13:15開場)

杉並公会堂 大ホール (JR・東京メトロ丸ノ内線 荻窪駅北口 徒歩7分)

【プログラム】

ファランク：クラリネット三重奏曲
ブルッフ：8つの小品 Op.83より
チェルハ：5つの小品より
ブラームス：クラリネット三重奏曲



公演情報はこちらからも確認できます！

全席指定 S席5,000円/A席4,000円

チケット購入はお得な
チケットメンバーズで！

チケットのご予約

- ・杉並公会堂チケットメンバーズ または チケットオンライン一般
- ・杉並公会堂チケットセンター (電話/窓口) 03-5347-4450
- ・チケットぴあ Pコード：295-973



詳細は上記QRコードからご確認いただけます。